

みつぎ便り

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

115号
4月号

平成28年4月1日 <http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>



タンポポ

春の陽気に誘われて散歩に出かけると、道ばたや空地で陽光に映えるタンポポの黄金色が春の到来を告げています。

タンポポの花は朝開き、夕閉じます。葉の周りには、ギザギザの深い切れ込みがあり、これをライオンの歯に見立てて英名は「ライオンの歯」と名付けています。開いた花は、花びらがいっぱいあるように見えますが、一枚一枚オシベもメシベも付いている一つの花になっています。このように小さい花が集まって

大きく見える花を頭状花といい、キク科の特徴の一つであり、旺盛な繁殖力があります。

花の基部を包んでいる緑の部分が反り返っているのは外来種のセイヨウタンポポ、反り返っていないのが在来種の一つ、カントウタンポポです。この花に出会ったら、笑顔で命ひしめく春をお楽しみください。(兼)

春の草 音符のやうに
のびてくる (岸本水府)

キタキチヨウ (キチヨウ)

今年も公園にはさくらの花がきれいに咲き誇り、花壇の花も負けず咲き乱れているようです。この時期は、鳥や昆虫たちもこの花を求めて忙しく飛び回っています。そんな中に蝶々たちも同じように集まってきました。

今回は、キタキチヨウを紹介しましょう。大きさは前のはねの長さがおよそ二、三cm前後です。モンシロチヨウやモンキチヨウよりやや小さく、色もモンキチヨウに似ている黄色をしています。が、表のはねの先端に黒い帯状の模様が見られ、はねの裏には



いくつかの小さな褐色の斑紋が見られるのが特徴です。

花から花へといつも忙しく飛び交っていることが多く、なかなかカメラのシャッターに収まり難い蝶です。幼虫の食草は、ネムノキ、ハギなどマメ科の植物の葉を摂っているようです。食草の若葉や新芽に産卵し一年で五、六回発生します。

ほぼ全国に分布しており、都市部、郊外、林、公園などごく普通に見ることが出来ます。冬には成虫で越冬することから、早春の三月頃から見ることが出来ます。十一月頃まで見ることができ、見次公園でもバス通りに面した花壇にある、ハギの辺りでよく観察することが出来ます。

(圭)